

## ◆ひたち公園管理センターの取り組み

ひたち公園管理センターでは、園内の自然環境を保全・活用するため、さまざまな取り組みを行っています。

その中のいくつかの取り組みをご紹介します。

### 【オオウメガサソウガイドツアー】

国営ひたち海浜公園は、長い間軍用地として使用されていたため手付かずの自然が残っており、また本公園の面する太平洋沖合は、寒流と暖流がぶつかる場所であることから、園内には生息域が北限或いは南限に近い生物が混在しています。

中でも“オオウメガサソウ”は、本公園が日本の南限地とされており、茨城県版レッドデータブックでは絶滅危惧、環境省レッドデータブックでも準絶滅危惧に指定されている大変貴重な植物です。



そのオオウメガサソウの魅力と残された貴重な自然環境を広く知っていただこうと、開花時期となる6月12日(水)～23日(日)の間、通常は植物保護のために一般の方の立ち入りを禁止している「ひたちなか自然の森・植物保護区」を公開し、「オオウメガサソウガイドツアー」を実施しました。

案内役は、普段、ひたちなか自然の森で調査や保全活動を行っている茨城生物の会と里山パートナーの皆さんが務めました。12日間の期間中、802名の方々をご案内し、本公園の貴重な自然環境をご覧いただきました。

### 【オオウメガサソウ保全シンポジウム】

オオウメガサソウガイドツアー開催中の6月17日(日)、オオウメガサソウが健全に生育できる森づくりを目指して、「第4回オオウメガサソウ保全シンポジウム」を開催しました。

基調講演では、「オオウメガサソウの菌根共生とその調査」と題し、帝京科学大学生命研究学部の岩瀬剛二教授にご講演いただいたほか、茨城生物の会の安島先生よりオオウメガサソウに関する調査保全の取り組みをご報告いただきました。また、里山パートナーが行っている調査や保全活動についてもご紹介しました。

シンポジウムの後にはオオウメガサソウ見学会を行い、ひたちなか自然の森で実際にオオウメガサソウやアカマツ林を観察しました。今回ご参加いただいた36名の方は、専門家による解説に興味深く聴き入りながら、熱心に質問をされていました。



### 【砂丘保全シンポジウム】

本公園の貴重な自然環境は、オオウメガサソウが生育する樹林エリアだけでなく、砂丘エリアにも残されており、そこにはさまざまな動植物が生息しています。

近年、コマツヨイグサやチガヤ等による砂丘の草地化やクロマツ幼木の増加が進んでおり、砂丘美化パートナーとともにそれらの除去作業を行って、砂丘保全に努めています。

この砂丘エリアの自然環境を知っていただき、砂丘に生息する動植物の魅力を感じていただく「砂丘保全シンポジウム」を今年 11 月に開催いたします。開催日時など詳細につきましては、後日改めてお知らせいたします。どうぞご期待ください。